

競技役員の業務心得

- 1 各係の交代は種目変更に合わせて行う。時間を厳守するため、余裕を持って行動する。
- 2 入場、交代の行動規律（審判長・副審判長・泳法監察・折返し監察・計時員）
 - ① 最初の入場（セレモニー入場）は、競技開始5分前に各係毎にラウンジに整列し、『入場』の通告により音楽に合わせて入場する。プログラムは縦にして左手に持つ。（選手権のとき）
 - ② 整然と入場し、所定の位置に立つ。通告による競技役員団、審判長、出発合図員の紹介の後、審判長の手の合図（小さなアクションなので注目）により一斉に着席する（選手権のとき）
 - ③ 交代時は2種目前もしくは10分前に入場の隊形でラウンジに待機する。前任者の最終レース中に折返し監察主任の合図で整然と行進し、所定の椅子の前に立ち、ブロックごとに揃って着席する。なお、前任者は折返し監察主任の合図で揃って退場をする。
表彰と交代が重ならないように、割当を組む。（表彰終了時の交代は避ける。）
 - ④ セレモニー退場は、音楽により起立し（プールの方を向いている）、「競技役員退場」の通告により進行方向に向きを変え、歩き出す。（選手権のとき）
 - ⑤ 上履きと下履きの区別を明確にする。（上履きは必ず白いシューズ）
- 3 審判の合図等について
 - ① 折返し監察員は主任に対し、『違反は無かった』の確認の意味で身体・顔を向けて（正対して）から席に戻る。
 - ② 違反があった場合は、折返し監察員は主任に正対してからプールサイド側の腕を軽く上げ、手のひらを主任に向けアピールする。折返し監察主任は違反があったコースの折返し監察員のところへ移動し、詳細を確認する。その際主任は、違反があったらしい旨を審判長にトランシーバーで報告する。
※主任は「アピールがあった時点で報告」、「詳細がわかってからの報告」の2回の報告をする。

各係の主要業務

○泳法審判員

《主任》

- (1) 審判長と反対サイドのゴールサイド側に位置する。他の泳法審判員にそれぞれの位置と任務を指示する。
- (2) 競技中は自己のサイドで全競技の監察を行い、全選手が泳ぎ終わったら他の泳法審判員からの合図を受け審判長に送る。

《泳法審判員》

- (1) 競技者が、泳法・その他のことについて競技規則に則っているかを監察する。
- (2) 折返し監察員を補助し、スタート後の泳法、折り返し前後の泳法、リレー引継ぎ、ゴール前の泳法ゴールタッチについても監察する。
- (3) 背泳ぎ・バタフライ・自由形の種目については、スタート及び折り返し後、15mラインに位置し、浮き上がりを判定する。
- (4) 違反があった場合は即座に審判長にトランシーバーで報告し、その判定の審議に参加する。

<要領>

- ①両サイドに2名ずつ計4名で配置につく。
- ②審判長の短い笛の合図で起立する。
- ③自由形・バタフライ・背泳ぎの時は、長い笛の合図で2名とも15mラインに立ち、スタート後の15mの浮き上がりを1サイド2名で監察する。その後進行方向の1名が先行して歩きながら泳法を監視する。折り返し側の先行の1名は5m付近まで近づき折返し監察員の補助のため折り返し動作を監察する。あとの1名は15mラインを監察する。ターン動作等確認の後、15mライン確認者を先行として2名で泳法を監察する。順位がバラけた場合は臨機に行動する。
- ④泳ぎの時は、スタート時は長い笛の合図でプールサイドのスタート後のひとかき、ひと蹴り、バタフライキック及び浮き上がりを確認しやすい位置に立つ。ターン後についても同様に確認する。
- ⑤審判長の指示があればフライングローブを落とす。
- ⑥違反はそれが規則に則って説明できるか否かを考慮して監察する。

☆監察のポイント

自由形…スタートおよびターン後の潜水の際、15mラインで頭が水面に出ているか。

平泳ぎ…スタート・ターン後のひとかきひと蹴りの際のバタフライキック。バタ足の使用は不可。

バタフライ…スタートおよびターン後の潜水の際、15mラインで頭が水面に出ているか。かき終わって前方に出す腕（肘）が水面に出ているか。バタ足の使用は不可。

背泳ぎ…スタートおよびターン後の潜水の際、15mラインで頭が水面に出ているか。

個人メドレー…上記の4種目についての監察。背泳ぎから平泳ぎへのターンでは、背泳ぎのタッチまでは体が水面に対して90°以上になってはいけない。

リレー…引継ぎ。浮き上がり。メドレーリレーでは4種目の監察も行う。

○折返し監察員（以下監察員という）

《取りまとめ役》

(1) 競技中は自己のサイドで全競技の監察を行うと共に、監察員からの合図を受け審判長に送る。

(2) 監察員から違反報告があった場合、直ちに違反があったコースの監察員のところへ移動し、詳細を確認する。確認後、審判長に報告、判定の審議に参画する。

(3) 背泳ぎの競技で、計時員にバックストロークレッジの使用方法を事前指導し、競技中に着脱の指示を行う。

《監察員》

(1) スタート後、折り返し時、ゴール前の泳法やリレーの引継ぎ、ゴールタッチについて監察する。（ゴールタッチについては計時員と共に注視。）

(2) 5mフラッグの着脱を行う。

(3) 800m、1500m競技において、泳いだ距離のコールと、振鈴を行う。

<要領>

① 背泳ぎの際、各組のスタート前にバックストロークレッジを取り付け、スタート後すぐに引き上げる。

② スタート側監察員は、全泳法において、審判長の短い笛で立ち上がり、長い笛でスタート台後方の所定の位置に移動する。背泳ぎの際は、足がタッチ版についているか確認し、正常ならば正面を向く。

③ 出発と同時にスタート台右横に移動し、平泳ぎはひとかき、ひと蹴り、ドルフィンキック、浮き上がりまで、バタフライは最初のひとかきが抜けたことを、自由形、背泳ぎはコースを逸脱しないで浮き上がったことを確認して主任に合図し、所定の位置に戻る。

④ 競技者がゴールまたは折り返し前10mの位置にきた時点で監察位置に立ち、壁へのタッチまたはタッチ前、折り返し前最後のひとかきの始めから、折り返し後の最初のひとかきの終了まで及びゴールタッチが競技規則に従っているかを監察する。ターン時、体がコースから出て一時的なものに限っては救済する。

☆監察のポイント

自由形…ターン・ゴールの際、体の一部がタッチ版の有効面に触れているか。

平泳ぎ…スタート・ターン後のひとかきひと蹴りの際のドルフィンキック。

ターン・ゴールタッチとも、両手で行っているか。

バタフライ…ターン・ゴールタッチとも、両手で行っているか。

背泳ぎ…ターン・ゴールの際、体の一部がタッチ版の有効面に触れているか。

ゴールタッチの際、体が反転し、うつぶせ状態になっていないか。

個人メドレー…上記の4種目についての監察。背泳ぎから平泳ぎへのターンでは、背泳ぎのタッチまでは体が水面に対して90°以上になってはいけない。

○計時員

(1) 選手がゴール前10mに来たら、グリップを持ち、スタート台左横に上がる。

(2) 選手のゴールタッチに合わせて時計を止め、グリップを戻して、席に戻る。

①ゴールタッチの確認に当たっては、タッチが流れたか否かをよく確認し、ライトタッチを見誤らないように注意する。競技者のスピードや泳ぎのリズム等につられないようにする。

②時計を止めるとき、大袈裟に振り回さないこと。身体につけて確実に押す。（腰骨のあたり）

(3) リレー競技において、第1泳者の正式計時を行う。

(4) 計時中にタッチ板に足が触れないように注意する。

(5) 全自動審判装置を採用していても、装置の異常時、半自動計時が採用される場合があるので、誤りのないようにする。ライトタッチがあるので特に注意する。

(6) 計時が終わったら、自席に戻る。

※800、1500mの種目については、100mずつのラップをとるようにする。

○場内指令

(1) 競技場内外を巡視し、競技会場の秩序維持に努める。

(2) サブプールの監視を行う。

(3) カメラ・ビデオの撮影を行っている人が、撮影許可証を身につけているか確認する。

(4) カメラ盗撮等の不正を見つけたら、直ちに善処体制を敷く。